

令和6年度 学校評価報告書（目標設定・実施結果）

視点	4年間の目標 (令和6年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価（中間報告）		学校関係者評価 (10月22日実施)	総合評価（3月7日実施）	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	・新たに工業教育の充実と 多彩な進路に対応する教育 課程を提供する。 ・探究活動を通じ、自らの 課題発見と解決能力を育成 する。	①新たな進路別の教育課程により多彩な進路に 対応する。 ②工業教育の活性化を図り、生徒の自己肯定感 を高めるとともに、探究活動を通して自己の 生き方、進路理解、地域リーダーとしての資質 を身に着けさせる。	①2年次から進路別の必修選択を行い、将来の 進路に備える。 ②資格取得やコンテスト等への参加により、成 功体験を積み重ねることで、進路実現に向 けた意識向上を図る。 ③総合的な探究の時間や 向工Fesで体験活動を 積み重ね、資質の向上 を図る。	①1年生が進路別必選を 理解し、自己の将来に 合わせた選択を行う事 ができたか。 ②資格取得への取り組み 状況は向上したか。工 業に取り組む意識は向 上したか。 ③探究活動や向工Fesに より自己理解や地域の リーダーとなる資質が 向上したか。	①総合的な探究の時 間、向工Fesを通じて 進路選択について考 え、2年次の必修選 択を行ったか。 ②引き続き生徒の活動 を支援し、成功体験 による自己肯定感の 向上に努める。 ③ジュニアマイスター は前期で3名の申 請があった。上 級資格への挑戦も 多数みられる。 ④総合的な探究の時 間、向工Fesを通じ て、生徒の資質の 向上が図れた。	①建設科1年コース選 択の時期について検 討が必要である。 ②生徒の自己理解につ いては資質の十分な 向上が見られたが、 学び直しについては AI学習ソフトを使 った指導法の改善など が必要である。	・STEAM教育や学科 を超えた共同授業等の導 入、推進が望まれる。 ・資格取得やジュニアマ イスターへの挑戦で工 業高校生としての成功体 験を積み重ねて欲しい。 ・生徒の学習レベルに応 じたAI学習の導入は望 ましい手段のため、今後 も活用をしていただき たい。 ・デジタル化の活用は不 可欠であり、様々なIT 技術に触れる機会を作 つてほしい。	①進路別の新教育課程 により1年次から将 来の進路を考えた進 路選択の指導ができ た。 ②工業教育の活性化を 図り、ジュニアマイ スター8名(ゴールド 3名・シルバー4名・ ブロンズ1名)および 工業系各種コンテス トで活躍が見られ た。 ③地域探究におけるリ ーダー育成は企業の協力を 仰ぎ、引き続き実施す る。 ④AI学習ソフトによる学 び直しは指導法の見直 し、端末忘れ対策を図 り、学力成果の向上を図 る。
2	(幼稚・児童・) 生徒指導・支援	・生徒の主体性、協調性の 育成をめざし、学校行事や 部活動等を推進する。 ・生徒の安心・安全な学校 生活に向けて、生徒一人ひ とりに応じた支援を推進す る。	①生徒会、各委員会、部 活動における主体的な 活動の支援を行う。 ②個々の生徒に応じた生 徒指導・支援を行う。	①生徒会や委員会の組織 を適切に構築し、学校 内の様々な課題に協力 して取り組めるよう支 援する。 ②問題行動の未然防止と して、些細な情報も漏 らさず、きめ細やかな 対応を図る。 ③子どもサポートドック の取組みを推進し、SC やSSWとの協働を進め る。	①学校内の課題解決や行 事の成功、生徒の成長 などを観察し、効果的 な支援を行えたか。 ②問題行動の未然防止に より特別指導の件数が 前年度より減少した か。 ③生徒が相談窓口を理 解し、職員の生徒への支 援意識の醸成が図れた か。	①生徒会本部の生徒 と連携して生徒会 がメインとなり、 行事を盛り上げて いく支援と助言を している。 ②ボランティア委員 会では、エコキヤ ップ回収運動を新 たな企画とし、取 り組んだ。	①文化祭や体育祭で生 徒が主体となる行事 になるよう引き続き 支援・助言を行う。 ②1学年の指導件数が 増えていることか ら、学年集会や担任 との連携により、学 校生活のルールに對 する自覚を持たせ る。	・生徒が主体的に活動す ることで得られる、気づ きや学びを大切に見守っ ていただきたい。 ・エコキヤップ回収な ど、資源循環、脱酸素の 取り組みに関わることは 重要で、そのような資源 がどのように再利用され ているかを考えるきっか けにもなってほしい。 ・指導件数の増加は危惧 するが、日常の学校生活 において相談ができる信 頼関係を築いていただき たい。 ・ソーシャルメディアに 関する教育、高額報酬を 歌うバイト等の勧誘への 対策も重要だと思 う。	①生徒会行事におい て、生徒会役員の主 体的な活動が見ら れ、多くの生徒に成 功体験を積ませるこ とができた。 ②エコキヤップ回収運 動を地域と連携して新 規の取組みとして実 施できた。 ③担任との連携によ り、日頃から相談し やすい環境を整え、 いじめに関する早期 発見と深刻化する前 に解決することがで きた。SNSの問題が 散見され対応の検討 が必要である。 ④サポートドックに限 らず、教員の日常的 な気付きからSCや SSWと連携し支援に つなげた。

3	進路指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> 生徒一人ひとりの進路実現に向け、社会的、職業的自立に向け、能力や態度を育成する。 生徒の多様な進路選択に向けた情報収集や情報整理能力を育成する。 	①進路選択における進路指導の充実を図る。 ②専門業者と連携し、進路選択に向けた知識を広めることでミスマッチを防ぐ。	①ICTを活用した情報提供を行い、進路に関する相談時間を確保する。 ②専門業者を利用し、説明会・セミナー等を開催、模擬試験や論文指導等を行う。	①ICTの活用により、生徒がより多くの情報収集と相談時間の確保ができたか。 ②自己の実力を判断し、進路選択に役立てることができたか。	①求人情報など、ICTを活用した情報提供を行った。 ②専門業者を利用し、履歴書指導、面接指導等を行った。	①企業の訪問対応にかなりの時間を費やしたため、思ったより相談時間を見直し、相談時間の確保をお願いしたい。 ②専門業者を利用した面接指導や履歴書指導で担当者の負担は多少軽減された。	・進路のミスマッチ防止のために、バランスを見直し、相談時間の確保をお願いしたい。 ・将来の進路選択を入学直後から意識させ、準備期間を含めて保護者とも情報共有を進めてほしい。 ・専門業者の活用は継続し、進路指導の充実を図っていただきたい。	①ICTの活用により、生徒が多くの企業情報を得ることができたが、情報過多で決めきれない状況もあった。 ②専門業者の指導が入っても最終的な指導が必要であり、できるだけ指導時間の確保に努める。
4	地域等との協働	<ul style="list-style-type: none"> 「学校を核とした地域づくり」をめざして、地域と学校が相互に連携・協働して行う様々な活動を推進する。 中学校やその生徒、保護者へ向け、本校の魅力・特色を広報し、地域に根差した学校づくりを進める。 	①「学校を核とした地域づくり」をめざし、地域や企業との連携事業を推進する。 ②本校のホームページ、説明会等で教育活動を発信する等により広報活動を行う。	①自動ハンドベル演奏やジュークボックス修理、体験教室など、地域や企業との連携事業を行う。 ②学校説明会の内容を検討し、ホームページや動画等を充実させ、本校の魅力・特色を広報する。	①体験教室のアンケート結果の満足度と地域や企業との連携事業を広報することができたか。 ②説明会等のアンケート結果の満足度とホームページ等を通して魅力・特色を積極的に発信できただけ。	①体験ジューケーボックスは多摩区役所主催のイベントに参加予定であったが、雨天不参加であった。今後のテックラボについては引き続き広報をしていきたい。 ②これから説明会で授業見学を行い、工業高校の魅力、学校紹介を行っていきたい。ホームページやインスタグラムの更新も継続して行っていきたい。	①ハンドベルは生田緑地のイベントに参加予定であったが、雨天不参加であった。今後のテックラボでは県工業高等学校生徒研究発表会において会長賞を頂いた。 ②学校説明会や公私合同説明会等多くの参加があり、約75%が満足との回答であった。また、ホームページやインスタグラムにおいて、学校行事や部活動の大会報告等、実施後すぐに発信をすることができている。	・地域のイベントや学校説明会等を通じて「ものづくり」の魅力をさらに発信してもらいたい。 ・地域にある中小企業との交流を積極的に進めてほしい。 ・進路選択の支援として、具体的なイメージがあるより適切な選択がしやすいため、就職・進学した卒業生や企業からのプレゼンテーションの機会を設けると良いと思う。 ・文化祭の科展等、見学者に対する説明を生徒が担当すれば、自分の言葉で学んでいることを説明する良い機会になると思う。 ・Instagram投稿の充実は素晴らしいと賞賛したい。学校説明会時にはQRコードを印刷物に記載し、志望している中学生・保護者への広報活動にも活用していただきたい。	①ワクワク体験や3回実施されたテックラボの満足度は平均約98%との回答であった。ジューケーボックス修理では県工業高等学校生徒研究発表会において会長賞を頂いた。 ②4回実施した学校説明会は平均約76%が満足との回答であった。また、ホームページやInstagramで本校の魅力・特色を広報することができた。 ③今年度から始めたInstagramは、今年度だけで111件投稿し、428名のフォロワーを獲得できた。
5	学校管理 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> 学校と授業のICT化を支える情報管理を図る。 生徒の安心・安全な学校生活に向けて、防災教育・環境保全を推進する。 職員の資質向上や、風通しの良い職場づくりにより、事故不祥事防止を未然に防止する。 	①すべての教員が校内のICT機器を使用できるようにする。 ②生徒が安心して過ごせる環境をつくるとともに、職員の事故不祥事を未然に防止する。	①ICT機器使用に関する研修を行う。 ②選択教室を含む全ての教室で、机・椅子等の整備を行えたか。 ②会計処理等、不適切な事案がなかったか。	①職員がICT機器を使用できる。 ②選択教室を含む全ての教室で、机・椅子等の整備を行ったか。 ②会計処理等、不適切な事案がなかったか。	①視聴覚機材をいつでも使えるよう支援用機材の整備や備品管理を行った。 ②不要な机や椅子を撤去し、倉庫の整理を行った。 ②会計処理に間違いが無いよう、過去の例を提示し注意点を周知した。	①生徒の端末をモニターに映すための機器を購入し、授業での活用を促した。 ②机や椅子について、壊れたものを廃棄するのではなく、補修して使う仕組みを整えたい。 ②実際の事務作業が始まる前に会計処理に関する研修を行った方がよい。	・ICT機器の導入、ソフトの活用には十分な研修や活用機会を増やして使う人のノウハウも高めていく必要がある。 ・机や椅子の補修は、工業高校としての実習効果も期待したい。文化祭でのバザーなどで地域貢献にも活用できる可能性がある。 ・会計処理など不適切な事案が生じないよう、研修の他、相談しやすく、速やかに改善できるようお願いしたい。	①生徒端末とモニターの接続機器を導入し、研修会も行ったが、活用は限定的であった。 ②傷んでいた選択教室の椅子・机の整備を行って安全な学習環境を作ることができた。 ③会計担当者の打合せを行い、中間監査までのところで、事故等は起らなかつた。会計が不慣れな職員へのサポートが必要だと感じた。 ④引き続き、情報伝達を確実にして、会計担当者のサポートをしていく。特に、会計処理に慣れていない職員に対して、手厚いサポートをしていただきたい。